



p4cみやぎ8月研修会報告

第2回

p4c みやぎ定例研修会（オンライン）

第2回 p4c みやぎ定例研修会が、8月31日(水)にオンラインで実施されました。

研修Ⅰでは、宮城教育大学菅原正則教授から『家庭科教育における実践』というテーマで講話を、研修Ⅱでは、菅原先生の講話を受けて3つの分科会で協議と情報交換が行われました。3名の新しい参加者の皆様をお迎えして、和やかな雰囲気の中で研修会は進められました。

【研修Ⅰ】

講話：『家庭科教育における実践』

講師：宮城教育大学 家庭科教育

教授 菅原 正則先生

・数量を表す単位の(長さ、重さ、時間 etc.)の調べ学習(家庭科ゼミナール)

p4c を実施する前に、予め“単位が成立するまでの経緯“などいくつかのトピックについてレポートを作成させた。(以降、○は学生の問い)

○もし、世界の単位をメートルに統一したら、どんな不都合が起こるか？

○愛や言葉の重さってどういうこと？

・住居設計課題の講評会(住居学実験・実習A)

製図の設計課題で、条件に合わせて間取りを考えさせる授業を行ったが、この時も p4c は大変に有効な活動であった。

・HUG(避難所運営ゲーム)の振り返り(家庭科ゼミナール)

避難所運営ゲームは、様々な背景をもつ人達が集まる避難所で起こる課題に、懐疑的に取り組むゲームである。その振り返りで、p4c を導入した。

○避難所のコロナ対策はどうすれば良いか？

○避難所運営では、何を一番大事にするか？

・バーチャル教室での実践(コロナ対応)

コロナ禍の中で、p4c をオンラインでありながらも対面の良さを残しながら実施できるか、実験的に試みた。アバターを使って、仮想空間と実空間を連動させた中で p4c を実施できた。

・SDGsの各ゴール(サステナブルデザイン論)

17個のゴールのうち、15個のテーマについて問いを立てる活動を行った。

○もし100万円を寄付するとしたら、何を目的に寄付する？(G01 貧困をなくそう)

○女子大はあるのに、男子大がないのはなぜ？(G05 ジェンダーの平等)

・まとめ

“既知の学習内容への p4c 導入は意味がないのか？”

算数など別解がある場合は有効であり、答えが決まっても、自分が見つけたら嬉しいという思いは大事にしたい。また、決まった答えとされていることに対しても、本当にそうなの？と考えることで、教科に於いても p4c によって思索を深められる。

「知識には限界があるが、想像は世界を包み込む(アインシュタイン)」のような気持ちがあれば、p4c は様々な場面で活用できる。

【研修Ⅱ】 分科会での協議・情報交換

(A グループ)

○幼児教育における p4c では、子供たちの素直な言葉から新たな気付きを得た。

○理科で p4c を行うことは難しいと思ったが、導入段階で対話を行ってから学習に進むという進め方ならできると感じた。

○真理とされていることでも、本当にそうかと考えてみることで、新たな気付きが生まれ、さらに深い思考に繋がっていく。

(B グループ)

○答えが見えているものに対して、p4c で別な角度からの気付きが得られるのではないか。

○ディスカッションとフィロソフィーはどういう違いがあるのか。

○子どもから「どうして種を蒔くと芽が出るのか」という問い。不思議に思う気持ちを大切にしたい。

○国語の物語文で読解後に使える。前提を見直すことは大事だと考える。

○フィロソフィーは「知恵を友達のように愛すること」であり、考えることを楽しむもの。

○違う意見にも耳を傾ける謙虚さ、受け止める姿勢が自らを変化させる。

(C グループ)

○理科学習の科学的真理に迫るまでに、子どもたちがいろいろ可能性を見つけ出していくのに p4c が使われているのを見たことがあった。

○算数でも図形などで、補助線の利用や三角形の内角の和を求める場面で p4c が活用できる。

○p4c をしたいと思わせるような教師の働きかけも大切である。指導者側のマネジメント力が大事。

HP <http://p4c-miyagi.com/>

Mail p4c@grp.miyakyo-u.ac.jp